

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703113		
法人名	有限会社 グローバルケア		
事業所名	グループホーム グローバルケア		
所在地 (電話番号)	〒806-0078 福岡県北九州市八幡西区中の原一丁目4-7 (電話) 093-612-6007		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】(平成20年12月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤(専任6人 兼務5人)	非常勤1人 常勤換算5.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	築3年
建物構造	木造平屋建て 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (150,000 円)	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> /無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月29日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	6名	要介護2	0名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明石クリニック内科胃腸科・戸畑けんわ病院・菜の花クリニック・しゅう眼科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームグローバルケアは地域住民の交流の場である広々とした公園の正面に、一般住宅と並んで、家庭的なつくりで建っている。利用者一人ひとりの第二の住まいとして、安心して、穏やかに暮らせる配慮がされ、利用者と職員は家族の一員として、レクリエーションや買い物、散歩、習い事など、日々の生活にメリハリをつけて楽しんでいる。健康管理は看護師や応急手当普及員等が常駐して、利用者一人ひとりの状態を把握し、臨機応変に対応が出来る。管理者と職員は利用者とは過ごす時間を出来るだけ多くとり、静かな流れの中に溶け込むように、ゆっくりと会話をしながら時間が過ぎるのを忘れるような暮らしをしている。また、地域密着型ホームとして、地域との交流も、少しずつ広がり、職員全員で、地域から信頼されるグループホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は11件あったが、管理者、職員の頑張りで3件が改善されている。今後は「職員全員が理念を共有し、実践する」「運営推進会議を定期的開催する」「市町村との連携」「人権教育、啓発活動」「職員を育てる取組」「同業者との交流」「地域住民の協力を得て、夜間を想定した消防訓練と非常食、飲料水、毛布の備蓄」等を改善していくことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員が会議の中で意見を出し合い、管理者が取りまとめて作成している。管理者、職員は外部評価の意義を理解し、改善に向けて努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は利用者、家族、民生委員、行政職員、ホーム事務長、管理者、職員で構成し、不定期に開催している。ホーム利用者の生活全般や近況報告、行事、今後の取り組み等が報告され、参加者からは質問や要望等が提出されている。今後は二ヶ月毎に会議を開催し、参加者に地域住民や有識者等を加え、充実した会議になるように努力していくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に利用者や家族が気楽に出せる意見箱を設置し、苦情相談窓口、担当者などを明示しているが、利用者はほとんどいない。管理者、職員は家族来訪時や行事の時などに、しっかりとコミュニケーションをとり、信頼関係を深くし、何でも相談できる関係をつくり、ホーム運営に反映できるように工夫していくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会や前の公園で行われる、運動会、盆踊りに利用者と職員が一緒に参加している。ホーム行事は家族の参加はあるが地域の方には案内していない。今後は地域の交流の場である公園の正面に位置する地の利を活かして、地域住民との交流を広げていくことが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔・尊厳・研鑽」という理念のもと、利用者の尊厳を守り、笑顔溢れるホームを目指している。		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとしての理念の作成が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送り時など、理念の共有に向けての日常的な理念の確認は行われていない。	○	ミーティング時、朝夕の申し送り時に理念を確認し実践に向けて取り組むことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や老人会にも入会し、地域で行なわれる運動会や盆踊りなどの行事にも積極的に参加している。		ホームの目の前が公園という地の利を活かし、地域の方が気軽に立ち寄れる雰囲気作りが望まれる。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者、職員は、評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を活かして改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の定期的な開催は出来ていない。	○	運営推進会議の定期的な開催に向けて、積極的に参加してもらえるような働きかけをしていくことが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の研修会や講習会には出来るだけ参加している。	○	市町村の新人研修の場としてホームを提供するなど、ホーム側から積極的な関係作りを行い、市の介護相談制度を活用し、市町村との協働関係を築いていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域権利擁護事業や成年後見制度を理解し、資料を揃えるなど必要ときに支援できる体制作りを進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の健康状態、金銭管理の報告を行っている。		定期的に発行していた、ホーム便り「花だより」の復活が望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが利用は少ない。家族の来訪時には意見や苦情を積極的に聴くよう心がけている。		家族会の設立など、家族同士で話し合う場面を作れるよう工夫し、家族の意見や苦情を積極的に聴き取り運営に反映することが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動もようやく落ち着き、利用者に対して、全職員が担当しても同じ対応のサービスが出来るよう努めている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用に関しては、年齢、性別に制限はない。ホームで働く職員に対しても、休憩室、ロッカーを設け職員が生き生きと働ける様に配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	人権教育の研修参加はないが、利用者がその人らしく暮らせるよう、おもいやりの気持ちを持って支援している。	○	人権に関するビデオなどを運営推進会議や勉強会で利用したり、人権に関する研修会に参加し内部研修を行い、啓発活動に繋げていくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の研修会に参加できるよう、職員のローテーションに配慮しながら計画を立てている。	○	経験年数や習熟度に応じた研修会への参加など、職員を育てる取り組みを進め、サービスの質の向上に繋げることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での、勉強会や相互訪問などの情報交換や交流はある。	○	地域のグループホーム協議会に参加し、情報交換、相互訪問、研修会などを行いサービスの質の向上に繋がっていくことが望まれる。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会、体験入居などで、ホームに徐々に馴染んでもらい、利用者や家族が安心して納得のうえで入居に繋がっている。		
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、職員は利用者から教えてもらうことも多い。ホームの前のベンチで、利用者と職員がひなたぼっこしている姿が印象的であった。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員自身がされて嫌なことはしないということをモットーに、利用者の履歴などを参考にして、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見、希望を踏まえて、ミーティングで利用者の問題点や改善点を話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月毎に見直しを行い、状態変化があった場合は、その都度、本人、家族、医師、職員の意見を出し合い見直しの計画を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎、理・美容院の付き添い、散歩や買い物など、利用者や家族の要望に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医の受診は基本的には家族に付き添いをお願いしている。ホームの提携病院には月2回の定期受診、毎週月曜日の訪問歯科など、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りのあり方について、利用者、家族、主治医、職員全員でターミナルケアの方針を話し合い、共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者の個人記録類は一括保管し、プライバシーの保護の徹底に努めている。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調に配慮し、利用者のペースを大切に、その人らしく過ごせるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者宅配のため、職員が食事を作る時間を利用者と触れ合う時間に当てられるのでゆとりを持って利用者と接することができ、リハビリ体操、レクリエーションの後の食事を美味しく頂いている。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、月、水、金曜日が入浴日だが、利用者の意向を尊重し柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には、様々な方法で入浴が楽しめるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け、洗濯物たたみ、掃除、玄関前の花の水やり、菜園での野菜作りなど、利用者一人ひとりの力を活かして、継続できるように役割分担をし、楽しみごとや、気晴らしの支援をしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望にそって、近所への買い物、または散歩などを支援している。月1回の行事で、今回は回転寿司での食事会に出かけ大変好評であった。		
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。職員は、利用者の習慣や傾向を把握し、見守りながら対応している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとで、年に1回防災訓練を実施している。夜間を想定した訓練は行っていない。	○	地域住民の協力を得ながらの夜間を想定した避難訓練を実施し、災害に備えた非常食、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養指導のもとで、利用者一人ひとりの栄養摂取量や、一日の必要水分摂取量が無理なく取れるような支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、天井の吹き抜けから十分な採光があり開放的である。玄関前のベンチからは目の前の公園が眺められ、天気の良い日にゆったり過ごせる居心地のよい場所となっている。また、オゾン消臭機器を設置し、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた馴染みのものが置かれ、仏壇、写真などが飾られ、自宅に居るような雰囲気の中、その人らしく安心して過ごせるよう配慮している。		